



年について地図化し、長期変動の解析を可能とした。新しく作成された分布図と地理情報、社会経済情報等を組み合わせることにより、冬小麦の作付け域の分布と地理的諸条件との関係、作付け面積の経年変化の地域ごとの違いとその要因、作付け面積の経年変動に対する政策等の人間要因の影響、等を明らかにし、華北平原における冬小麦の作付け域の分布とその変動を自然要因と人間要因の両側面から説明した。

審査委員会では予備審査で指摘された事項が修正されていることを確認するとともに、本研究が中国華北平原においてリモートセンシングによる高精度な冬小麦作付け域の地図化を達成し、その変動要因について社会経済分野を含む多様な側面から明らかにしたことの重要性を認めた。

2020年1月29日に公開論文発表会・本審査委員会を開催し、論文発表と質疑応答及び審査が行われた。

2020年2月1日に本論文に関して剽窃チェックを行い、問題がないことを確認した。